

第3回亀岡市学校給食検討懇話会 議事要旨録

日 時： 令和 5 年10月19日(木)

場 所： 亀岡市役所 別館3階会議室

出席者： 久下沼座長・國府委員・松村委員・安田委員・須知委員・井尻委員・入木委員
辻村委員・四方委員

欠席者： 上田副座長・草木委員

事務局： 森岡教育部長

教育総務課

柳谷係長

学校教育課

今西課長・石田主幹

学校給食センター

岩崎所長

傍聴者： 1 名

議 題： 1 今年度の振り返り

2 配膳及び昼食時間の比較について

3 中学校の給食に関するアンケートについて

4 提言書に向けて

【記録】

1 開会

2 資料の説明

今年度の振り返り

配膳及び昼食時間の比較について

中学校の昼食に関するアンケートについて

提言書に向けて

を事務局より説明

3 意見交換・質疑応答等

座長)本日の議題として説明頂いた内容について、大きくは3つにわけられると思います。

第1に、前回の会議で出された、給食を既に実施している中学校の事例の確認で、給食の実施に合わせた時間管理の実態についての資料確認になります。

第2に、今年度実施された中学校給食の導入に関するアンケートの調査結果の確認で、今現在の学生、保護者、教職員の方々の声を、改めて確認したいと思います。

最後に、提案書の作成について、構成を含めて、今後どのような手順で進めていくかと

いう話です。

それでは、順番にご意見を伺っていきたいと思います。

まず、資料にある中学校の配膳及び昼食時間比較について、ご質問、ご意見等がありましたら発言をお願いします。

委員)調査対象になった3つの中学校について、それぞれどのような給食の実施方式を採用していますか。

事務局)センター方式と、自校方式、親子方式の併用といった状況です。

委員)中学校の関係の方にお伺いします。亀岡市の場合、5時間目の開始が13時15分と、他市の中学校より少し早いのですが、これは全体のスケジュールの中でこの時間設定をされていると思いますが、基本的には動かすことが難しい状況なのですか。

委員)動かすことは可能かと思えます。

開始時間を後ろにずらした場合、一つは放課後の部活動の時間に影響する可能性があります。つまり、部活の時間が5分から10分程度短縮されることになるかと思えます。

委員)部活動時間を一定に維持すれば、下校時刻が変化するかと思えます。

また、学校規模でも違いが生じるかと思えます。例えば、他市と亀岡市の中学校の比較で、生徒数、階数や廊下の広さなど校舎の構造などの違いによって、給食の配膳や片付けに要する時間差が出てくると思えます。

委員)現在のお弁当でも食べる時間は実質5分から10分と聞いていますが、給食となった場合には配膳は15分で出来るものですか。

委員)本校では、1年生であっても15分間程度で配膳が完了できているという状況です。ただし、本校は全棟が平屋で、2階、3階と垂直方向への移動がないので、他の学校と比べると短い時間で配膳が可能な環境にあるのかと思えます。

委員)校舎の階数が多い学校では15分では時間が足りないかと思えます。他市の事例で、生徒数が少ない学校の場合は短時間で配膳も可能かもしれませんが、亀岡市の中学校で生徒数の多いところでは、15分での配膳は難しいのではないかと思えます。

各学校に給食運搬用のリフトの新設工事はされるのですか。

事務局)現在の中学校には、配膳室や食材を上階に上げるリフトがないのが現状です。中学校の給食を実施することになれば、そうした設備も併せて整備しながら実施の体制を整えていく必要があると考えております。

委員)どの中学校でも、給食前後の教室移動等の時間を確保するため、お弁当の時間がどうしても圧迫されているかと思うのですが、原則的にはお弁当の時間を 15 分は確保しているのではないかなとは思いますが。

委員)中学校に通う我が家の子どもの話ですと、給食の後に昼休みがありますが、小学校のようにその時間に外に出てドッジボールなどで遊ぶということがないので、昼休みの時間も合わせて優雅に食べているということでした。

委員)「ごちそうさま」の時間は、一応は区切りますが、それよりもどうしても時間がかかる場合には、昼休みに入ってもゆっくりと食べてもらっています。

委員)お弁当ですと昼食の終了時間にある程度のバラツキがあってもいいと思いますが、給食ではそうはいかなくなります。

委員)資料にある中学校では、給食時間の後すぐに昼休みが設定されているのですが、昼休み時間中に給食担当の生徒さんが片付けをしている、というイメージでよいですか。

事務局)はい

座長)次に、令和 5 年度アンケート調査の結果について確認していきます。

資料には、今年度改めて生徒さん、保護者、教職員の方に中学校給食の実施に関して回答いただいたものが提示されています。以前の調査結果と比較して、回答の傾向に大きな変化は生じていないという印象を持ちました。

保護者の方たちは「実施した方がよい」、中学校の教職員の方たちは「賛成」「どちらでも」「反対」がちょうど 3 分の 1 ずつぐらい、生徒さんの方は、「実施した方がよい」「どちらでもよい」が相対的に多くて、合わせて 8 割という感じです。

給食導入に賛成と回答した人の理由としては、3つのグループとも上位2つは同じで、「栄養のバランス」「家庭での弁当づくりの負担の軽減」を挙げており、特に「家庭での弁当づくりの負担の軽減」を理由に挙げている割合が、3つのグループとも多いです。

現在のお弁当の継続を支持する理由としては、生徒さんと保護者さんは好みの問題と量の問題、学校の教職員の方々は配膳時間や指導等の負担増を理由に挙げている方が多くなっています。

学校の関係者の方から、給食を導入した場合、先ほどの話では一日のスケジュールはある程度は調整可能ということでしたが、給食導入に伴い配膳や片付けの指導が通常の業務に組み込まれることになると非常に負担が大きくなってしまふ、或いは個別の意見として、給食実施により生じる可能性がある食中毒やアレルギーなどの問題について、その責任をだれが負うのかということも理由に挙げている人もありました。

学校の教職員の負担軽減のために、他市の中学の取り組みで参考になるものはありますか。

事務局)他市でも、中学校の教職員の方は配膳指導の経験がないなど、ご苦労されたというお話は聞いております。

給食実施の前の段階で、教職員の間で給食のシミュレーションを行ったり、あるいは小学校に給食の実施状況を視察に行ったりなど、様々な研修を実施されたという事は聞いています。

また、できる限り配膳までの時間を短縮するため、配膳用コンテナを運びやすいものにするなど、少しでも負担軽減に結び付く工夫を実施されているという状況でした。

委員)生徒さんの回答理由で出されている「量の問題」ですが、人によって食べたい量が違うため、それが一律の量で提供される給食は望ましくない、という指摘かと理解しました。給食でも量について調整は可能ですか。

デリバリー方式でしたら大盛と小盛の選択ができる方式が考えられるかとは思いますが、給食で配膳の量を調整できる方式を用意しているところがありますか。

委員)小学校では、いろんな配膳の方法がありますが、基本的には一律同じぐらいの量を配った後で、増やして欲しい人、減らして欲しい人を後から聞いて調整しています。

個人盆が小学校の場合はありませんので、一旦配った後、自分の食器を持って増やしたり減らしたりするのですが、中学校であれば、やはり個人盆は必要だと思います。個人盆でセルフの方式を採用すれば、給食当番の人に自分はちょっと少な目に入れてとか、多めに入れてなどのリクエストを出すことで時間短縮はできると思います。

カロリーについては、給食として提供する場合は、文科省の栄養価の基準に合うものを提供していかなければなりません。しかし、運動クラブがある生徒や、小食の生徒など、生徒によって事情が異なるので、そのあたりは小学校でも増やしたり減らしたりという個人の差はつけさせていただいていますし、そういう調整は中学校でも可能かとは思いますが。

現在は、一律に同じものを同じ量だけ食べなさいというのではなく、個々の事情に応じた給食や個別指導は、食育の分野でも重視されるようになってきていますので、個人の事情に応じて差をつけることは必要だと思います。

座長)次に、提言書の形式について、ご意見を頂きたいと思います。提言書の構成・形式としては、資料の前半にこれまで検討の経緯を表示して、後半で個々の実施方式への意見や、給食全体に関する提言をまとめる、というのが事務局の案かと思っています。

後半ページについては、選択肢として挙げられている3つの方式である「自校方式」「センター方式(2つ)」「デリバリー方式」それぞれについてメリットとデメリット、或いはこの懇話会の中で出された意見を提起する形でまとめるという事になります。そして、後半ページ以降に、それらを踏まえて、全体としての提言をまとめる、という構成になります。

前回の会議でもお話に出ましたが、懇話会として1つの実施方式に絞り込んで、それを答申する、諮問機関による提言の形式を採用せずに、中学校給食の実施の判断に際して

はこういうことも考慮して欲しい、こういうことも重視して欲しいといった多様な意見を織り込んだ意見書のような形式になるのかと考えています。

提言書の形式、或いは内容についてご意見あればお願いいたします。

委員)提言書の中には、アンケート結果を載せることは考えていますか。おそらく、これから懇話会で議論していく中でこのアンケート結果をもとに進めていくことになると思うので、懇話会の提言の根拠になっているこのアンケート結果を提言書に載せることは必要かなと感じました。

座長)はい。当然、我々はこのアンケート結果などの資料を基に議論したということを、提言書の中で明記することになるので、添付資料として提言書と合わせて提出することになるかと思います。また、提言書の中にも、アンケートの主要な結果に基づいて懇話会ではこういう意見が出ました、という記述は入れて良いと思います。

座長)当然ながら、学校関係者の教職員の方のアンケート結果では、生徒や保護者とは異なる結果・意見が出ているため、これに全く触れないわけにはいかないと思います。それを示したうえで、給食を実施する場合には教職員の方々の納得と理解を得るための適切な対応を、という意見は入れるべきかと思います。より具体的には、今日のお話しでも出たように、時間的な問題と、教職員の指導などにかかる負担の問題がはっきりと指摘されていますので、それぞれについて一定の手立てが必要ということは明記していいのかなと思います。

委員)私は小学校の給食の経験しかないのですが、実際に中学校で30数人学級ごとに、大おかず、小おかず、ご飯がどれぐらいの量になって、それを配膳するものに入れて校舎の3階、4階まで運んで教室まで持って行く、ということがあまりイメージできません。私が昨年度まで勤務しておりました小学校は、30数人学級で校舎は3階まであったのですが、6年生くらいになると子どもによっては量が足りないということが生じるので、最終的には個々の必要量に配膳して配るのではなくて、30数人全員分を同じように分けて、全部空になってから残りを改めて均等に分けていました。そうしないと最後に足りない人が出てくるなどの問題も生じるので、それを回避するために、そうした苦労も高学年になったらあります。中学校の給食がどういう形になるのかイメージができないので、量なり大ききなり重さなりというあたりの調整を、もし給食となったときにできるのかなという、そういった不安があります。

座長)こうした問題は、やはり既に給食を実施している中学校でも同じように直面してきた問題だと思うので、中学校によって工夫ある具体的な対応をされているところも多いかと思います。そうした事例などを紹介し、それらを基に導入が可能なやり方を検討すべきかと思います。

座長)デリバリー方式では、サイズ(量)を事前の申請で選択できますか。

事務局)はい、ご飯だけですが、現在は選択可能となっています。

座長)量が違うと給食費が同じでよいのかという問題が出てくる可能性もあります。例えば、うちの子は給食で量が食べられないから、給食費が同じだと困る、という意見は出ないですか。

事務局)今の選択制の場合は、デリバリー弁当の注文を受ける段階で量によって料金を変えることができていますが、給食となると難しいかもしれません。

委員)確認ですが、最終的にどのような方式で給食を実施するのかの決定は、教育委員会でされるということですか。

この会の目的としては、この案に示されているような様々な方式がある中で、個々の方式について、このようなところが良い、逆にここが少し心配だということを、我々が出して行ってそれを提言書にまとめるというのがゴールということでしょうか。

事務局)はい。再確認になりますが、提言書については先ほどご質問があった通り、個々の方式につきましてはそれぞれのメリットとデメリットというようなところを踏まえて、提言書にまとめていただくことを考えております。

また、決定については、教育委員をメンバーとする教育委員会中での議論をいただきまして、最終決定をいただくというような形になります。

懇話会としましては、各方式の優位性や懸念材料を整理していくかたちで議論をまとめて頂けたらと思います。

座長)提言書について、形式・構成の変更や修正などのご意見、あるいは提言書に織り込んで欲しい具体的な項目等あれば、ご意見をお願いします。

委員)京都府も亀岡市も、そして国も、子育て支援に関する方策を出しているという現状があり、おそらく育児、家庭、教育などの支援に関連して世の中の体制が変わってきていると思います。例えば、女性の社会進出という大きな社会的潮流がある中で、公的な子育て支援というものが拡大してきていると思います。つまり、そうした社会状況の変化を考えると、支援をしないと社会や家族が成り立たないという状況への危機感が国にも地方にもあるのではないかと思います。

そうした社会状況を踏まえると、現在のお弁当の継続という選択肢はあまり無いのかなというふうには思います。

また、給食を実施しない方がよいと思う理由として、今日配られた資料では結構と厳しい意見が書かれているなどという印象を持ったのですが、他方で10年後とか15年後を考えたときに、弁当のままでいけるのかという視点も必要かなと思います。

今よりも、母親の社会進出は進んでいると思います。そうした見通しに立てば、給食を実施したほうが良いという考えになるかと思いますが。もちろん、それでも反対という意見の方もおられるとは思いますが。

私が思うのは、生徒さんが全員で同じ食べ物を食べるっていうことに対する価値が、今のところ感じておられないのかな、という印象があります。給食を単なる昼ご飯と考えるのではなく、みんなで同じものを食べるっていうことの価値を見出せると、多分、反対の方々も給食賛成の意見にも耳を傾けてくれるのかなと思います。

給食をみんなで一緒に食べる価値っていうのを深めるため、例えば大豆ミートをみんなで食べる。その際に、大豆ミートが生産される社会的な意義とか、大豆ミートがどのようにできるかとか調べて話し合った上で、それをみんなで一緒に食べたら、おそらく子どもたちにとっての給食の意味や食べ方が変わると思います。

また、給食の時に生産農家の方に教室に来てお話しをして頂いた後に、みんなでその食材を使った給食を食べたら、子どもたちの給食に対する感覚は違ってくると思います。給食の実施に合わせて、そういった価値をつける企画っていうのを考えていった方が良いのかなと思っています。

スーパーでは52週販促カレンダーというものがありますが、おそらく給食は37週ぐらいあるのかと思うので、37週給食食育計画を立てて、毎週何か企画をして、給食の価値を高める工夫をしたら、おそらく子どもも親、そして教職員までも、もう少し給食への賛成数が増えるのかなと思います。

委員)全く同意するところで、社会的状況の変化に対して、給食も含めて学校運営が適応していく必要があるというのは当然だと思いますし、給食を、単に食事を摂るというだけでなく、様々な目的を持たせて、より意義の高いものにしていくこと、例えば農業教育や栄養学、或いは各教育と関連づけて食を通じて学びを与える機会として給食を活用するというのも、大変に意義のあることだと思います。

私は、学校給食は専門領域ではないのですが、どういう研究があるのかと思い検索してみる、BMI等の健康管理と給食の関係、つまり標準体重からの乖離幅などの子どもの健康管理に対しての給食の有効性や、あるいは共通テストの成績にどう影響があるか等の教育成果への影響などの研究が見つかります。それらの多くは統計的にはあまり有意な結果は出ていないようですが、今後は亀岡市も生徒の健康状態や教育成果などに関するデータをデジタル化していくことになるかと思いますが、そうしたものにつなげていくことで、給食がどこに効いてくるのかなど他の要因に加えて追次的にフォローしていくことで、給食の意味とか、教育上の機能としての広がりが出てくると思います。

委員)社会状況の変化への対応という話は、はじめにの部分でも書いてもらっているので、この提言書案では 1.はじめに、2.検討経過 3.給食センターについて、という順番できているので、この前の段階で、学校給食の目的等を入れると、先ほど委員がおっしゃったような、全員で同じものを食べることの効果や意味合い等も盛り込むことができるのではないかなと感じました。

委員)アンケート結果において、生徒、保護者、教職員とも「昼食が十分に取れていない生徒がいる」という点に言及している人がおり、特に教職員の方の回答では 11%の方がその点を指摘されています。子どもから聞く話ですと、親がお弁当を作っていない本人や兄弟姉妹で順番に作っていたりするなど、見えないところでお弁当に関連した子供の負担も多いということを聞いています。そうした点を踏まえると、学校給食の実施は、親だけでなく、子ども自身の負担軽減にも繋がるのではないかなと思っています。

実際に先生方から見て、昼食のお弁当を十分に持って来られないとか、食べていないと思われる子ども達はいますか。

委員)給食では、皆がお弁当を食べています。給食の時間は一律で決められているので、何も食べずにじっとしているという生徒はいません。

精神的にも、それから健康面でも、お昼ご飯が約束されているということは良いことだと思います。そういうこと(全員給食)を令和10年度から実施するということが前提にあると私は理解しているので、どんなことを提言で書くのかなと思っています。

委員)色々な方の意見を聞いて、給食に限らず「食べる」ということ自体の大切さや意義から、亀岡市の給食の在り方を考えることの大切さを感じています。これから20年後を見据えて、どんな子ども達を育てていきたいのか、どんな社会にしていきたいのかという大きなビジョンに対して、食べ物が大きく影響を与える可能性があると思います。給食は、単に食事を摂るというだけではなく、食べることの意義とか食育に繋がっていくと思いますし、さらには人間関係の形成など、とても大切な教育的意義があると思います。

給食を実施するか否かというようなことだけでなく、もう少し意味を広げて、食の大切さという点もこの提言書の中に盛り込んでいただき、それを踏まえた上で、給食方式の選択などを次の段階で具体的に決めていただければありがたいのかなと思います。

委員)会議の回数が残り2回と聞いています。スケジュールを考えると、次回の会議でまたここで意見出してまとめるというのは難しいと思うので、事務局の方からこの提言書案をメール等でいただいて、次回の会議までに、それぞれの委員が各項目について思うことを打ち込んで提出してもらい、事務局でそれらをまとめていただき、次の会議でそれを検討するかたちにするとよいかなと思います。委員それぞれで、今日のいろいろな意見を踏まえた上で、いろんな案とか思いとか考えが出てくるかなと思いますが、いかがでしょう。

事務局)本来であれば、今回の会議でもっといろいろと議論を深めて頂き、それを集約したものをメールでお送りしご確認していただいた上で、次の会議で出させていたどうかと考えていました。しかし、今回は時間の都合で実現が難しいため、今後はメール等を利用して意見を集約させていただきます。

座長)会議以外の時間でもお時間取ってもらうことになりますが、よろしくお願いします。それでは時間が来ましたので、これで本日の会議を終了させていただきたいと思います。

4 閉会